

テーマ：アリルアルコールのエノラートおよびホモエノラートへの変換を利用する不斉反応の開発

アリルアルコールは様々な変換反応が可能であり、多くの化合物の合成中間体となるため、有機合成上重要な化合物である。特に酸触媒により炭素-酸素結合を切断し、生じるアリルカチオンを様々な求核剤で捕捉する反応が精力的に研究されている。一方、塩基を用いて水酸基の根元のプロトンを直接引き抜くことができればアリルアニオンが生成するが、そのような反応の報告例は未だ少ない。このアリルアニオンは対応するケトンのホモエノラート等価体であるため、求電子剤を共存させることで α 位が官能基化されたケトンが得られると考えられる。またホモエノラートの分子内プロトン移動によって、エノラートへ変換することも可能である。そのため、アリルアルコールからアリルアニオンの発生法が開発されれば、アリルアルコールをホモエノラートやエノラートの安価で入手容易な前駆体として利用することが可能となる。既に **KHMDS** を塩基として用いることで、アリルアルコールのエノラートへの異性化を伴う α,β -不飽和アミドへの触媒的付加反応を達成している。現在はホモエノラートへの変換に関する研究を行なっている。